

すすむ防火帯整備作業

来春の火入れに向けて、本格的な防火帯の整備作業に取り掛かりました。

第1回の8月28日は作業日和で川野理事長他会員26名と大分県地球環境対策課の岩屋久美子主任も参加して、山積みになっていた伐採樹木の枝木の移動を終わりました。

湿原の外周となる防火帯は30mの幅で進めていますが、湿地の中には幾筋もの溪流が流れていて、急斜面の作業は足場を固めての切り払いで、困難を伴います。

また、約30年ぶりの輪地切りとあって、灌木やノイバラなど木本つる植物が密生した部分も多く、ナタやチェーンソーの助けを借りながらの作業となっています。

9月は秋雨前線が停滞し、台風の接近もあって予定よりも遅れ気味ですが、悪天候の中、会員の熱心な活動で着々と防火帯の様相が見えてきました。



急斜面での防火帯整備作業（灌木の除去に苦労します）

新しい侵入者（外来植物）の駆除



外来植物アメリカヤマゴボウの抜き取り

8月28日、防火帯整備作業を進めていたところ、県道に近い草地に異様な植物の群生地が目につきました。

近寄ってみると、外来植物のアメリカヤマゴボウ（ヨウシュヤマゴボウともいう）です。

成長すると赤紫色の柔らかい実を房状につけ分布を広げています。

幼生の時期に駆除しようと、さっそく手分けして引き抜きました。

イタチハギ同様、早めの駆除活動が必要です。今回、約500本抜き取りました。